

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 245 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 11 回

2017.9.20

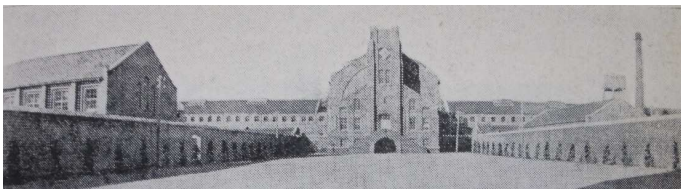
話：三沢浩

寺子屋 245 は 5 人の参加で開催されました。

■ 西洋からの「学び」によって成立してきた日本の近代建築は、伊東忠太や藤井厚二などによる日本の再発見を経由しながらも、堀口捨巳などの時代になると、世界のデザイン基調にほとんど間をおかず、同期するようになっていきます。しかも、日本では工学の範疇にいれられてきた建築は、佐野利器を基点に、構造工学、環境工学的視点が強く影響を与えていくことになります。けれどそれは、帝か国大学出の建築家を中心とした建築論とはなかなか交じりあわなかったようです。

■ そうした中で、建築のひかれたルール上にはいなかった後藤慶二が、それまでの大文字の建築とは異なる監獄を、囚人たちと一緒に手作りできつくりあげた「豊多摩監獄」が、構造とデザインの一つの融合を成し遂げたこと(長谷川堯の評価)などは、市民社会が建築をつくるというモダンデザインの本質が日本でも可能になってきたのかもしれない。

■ この後、勃興する資本が生み出す建築にかたちを与えるモダンデザイン、近代建築が見えてきます。その旗手の一人が村野藤吾といえそうです。もちろん、その前には石本喜久治、安井武雄、高橋貞太郎などの存在もあります。



後藤慶二「豊多摩監獄」



新建・寺子屋(モダニズムの研究)245

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2017年9月20日(水) 話：三沢浩

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 11 回

1. 前回のスライドVの補足(著書にない部分も)

- 1) 早大、京大の建築と建築家
- 2) 看板建築の出現と結果
- 3) 石本喜久治、安井武雄、高橋貞太郎の功績
- 4) 東京下町の都市計画と震災復興
- 5) 同潤会アパート建設の成果について

2. 今回のスライドVIのこと

- 1) 渡辺節と村野藤吾の前に
- 2) モダンデザインとは何か、藤森の提言を入れる(P153)
- 3) アールヌーボーからデ・ステイル、そしてバウハウス、ミースへ
- 4) 村野藤吾から渡辺仁に至るデザインの系譜

3. 「モダンデザイン」の位置づけ、藤森のいう「ツルピカ」とは

- 1) アールヌーボーの植物、アールデコの鉤物性
- 2) ウェルクブントのタウト、デ・ステイルのリートフェルト
- 3) グロピウスの出現と「バウハウス」のガラス張り
- 4) さらに大きな存在となったミースの「バルセロナ・ドイツ館」

4. 次にあらわれた「モダンデザイン」について

- 1) 後藤慶二から本野精吾へ
- 2) 堀口捨巳と藤井厚二の「聴竹居」のこと
- 3) 「帝国ホテル」と遠藤新、そしてライト式とは
- 4) MAVO をこえて、モダンデザインの世界へ
5. これ以後の村野藤吾とレーモンドの存在
 - 1) 初期モダニズムとしてとりあげたいこと
 - 2) デ・ステイル派のA. レーモンドの特性

次回 <寺子屋 246> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 11 回 話：三沢浩

2017年10月18日(第3水曜日定例) PM 7:15~

場所:新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費:400円

問合:大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com